【ネット中継】ホームランダービー 2026 オールスターゲーム 第1戦

最終更新日:2026年7月29日

PC・スマホ対応のオールスターゲーム第1戦ホームランダービーライブストリーミング配信。

【球宴】ホームランダービー組み合わせ決定

佐藤輝明vs.清宮幸太郎・森下翔太vs.万波中

正など

NPB(日本野球機構)は27日、オールスターゲーム2026(28～29日)の試合前に行うホームランダービーの対戦組み合わせを発表しました。

セ・パ両リーグ4名ずつ計8選手が、2試合を通したトーナメント方式で対戦するホームランダービー。第1戦(28日、東京ドーム)前には準々決勝2試合と準決勝1試合が行われます。東京ドームでの準々決勝対戦カードは佐藤輝明選手

(阪神)-清宮幸太郎選手(日本ハム)、森下翔太選手(阪神)-万波中正選手(日本ハム)となり、阪神勢と日本ハム勢の激突が組まれました。

第2戦(29日、富山市民球場)前には準々決勝2試合と準決勝1試合、決勝戦が開催。この日の準々決勝対戦カードは牧秀悟選手(DeNA)-栗原陵矢選手(ソフトバンク)、細川成也選手(中日)-レイエス選手(日本ハム)となりました。

競技は2分間球数無制限でホームラン数を競い、同点の場合は1分間の延長戦によって勝敗を決します。

▽ホームランダービー対戦カード

【第1戦前の開催】
佐藤輝明(阪神)-清宮幸太郎(日本ハム)
森下翔太(阪神)-万波中正(日本ハム)

【第2戦前の開催】

牧秀悟(DeNA)-栗原陵矢(ソフトバンク)

細川成也(中日)-レイエス(日本ハム)

> 【速報】NPBホームランダービー2026　結果速報　出場者　組み合わせ　勝ち上がり表【日本プロ野球】

NPBホームランダービー2026 速報

「マイナビオールスターゲーム2026」の試合前に行われるホームランダービーの速報をお届け。セ・リーグ、パ・リーグから選出された計8選手（佐藤輝明、森下翔太、牧秀悟、

細川成也、栗原陵矢、万波中正、レイエス、清宮幸太郎）が、2試合を通したトーナメント方式で今年のホームラン王を争う。優勝者には賞金100万円（税込）と「新型日産キックス」1台が贈られる。

競技ルール

・セ・リーグ4名、パ・リーグ4名の計8名が出場

・2分間、球数無制限で本塁打数を競う

・同点の場合は1分間の延長戦を実施

・延長戦でも同点の場合は、ファン投票順位、本年公式戦本塁打数、昨年公式戦本塁打数の順で決定

・ただし、決勝が0本同士の場合は引き分け

【球宴】DeNA牧秀悟、ホームランダービー連覇なるか「3本以上打てるよう」目標は少し控えめ

＜マイナビオールスターゲーム2026：全セ－全パ＞◇28日◇第1戦◇東京ドーム

全セのDeNA牧秀悟内野手（28）がホームランダービー連覇を狙う。

この日のホームランダービーの様子を見届け「2分間打ち続けるってしんどそうだと思いました」と正直な感想を明かした。第2戦は富山市民球場での開催。「屋外なので風とかも含めもっと大変だとは思うんですけど、勝てるように頑張りたい」と見据えた。

目標の本数を問われると、少し考えた上で「3本以上は打てるように頑張ります」と控えめに宣言。「初戦も準決勝の相手もすごい人なので、なんとか勝てるように」と力を込めた。

昨年は“4度目の正直”でホームランダービー初優勝。富山でもアーチを量産し、連

【球宴】佐藤輝明がホームランダービー決勝へ　森下翔太との阪神対決制す

◇プロ野球オールスターゲーム2026第1戦 ホームランダービー(28日、東京ドーム)

セ・パ両リーグ4人ずつ計8選手が、2試合を通したトーナメント方式で対戦するホームランダービー。この日は準々決勝2試合と準決勝1試合が行われ、阪神の佐藤輝明選手が決勝進出を決めました。

準々決勝1戦目、先攻は佐藤選手。前半30秒で2本をスタンドインさせると、残り30秒で怒濤の3連発を放ち、最後の1本もホームランにして昨年と同じ6本のアーチを描きます。

後攻の日本ハム・清宮幸太郎選手も、はじめの30秒でまず2本。低い姿勢からうまくすくい上げた当たりも含め、後半1分に4本のアーチを描き、同点で延長戦に持ち込みます。

1分間の延長戦では佐藤選手が4本、清宮選手が2本。佐藤選手が準決勝へ進みます。

2戦目の先攻は阪神・森下翔太選手。前半1分で6本をたたき込むと、後半には体をひねりながらスタンドインさせるなど、計9本という驚きの結果を残します。

後攻の日本ハム・万波中正選手も負けじと初球ホームランを放ちますが、中盤

伸び悩み計6本で敗退。しかし全方向に打ち分け、最後は自身の看板に当てる特大弾が飛び出すなど見せ場を作りました。

阪神の先輩後輩対決となった準決勝。セ・リーグ本塁打数トップ2の2人ですが、まずは佐藤選手が開始から3連発とさすがのパワーを見せます。さらに外野の最上段に飛び込む一発など計7本を放ちます。

一方の森下選手は4本という結果に。佐藤選手が阪神対決を制し、翌日の決勝に駒を進めました。
最終更新日：2026年7月29日 15:16
#Minabi All-Star Game 2026 In the first game, the "Minabi

All-Star Game 2026 New Nissan Kicks Home Run Derby" featured a semifinal matchup between Teruaki Sato (T) and Shota Morishita (T), with Teruaki Sato advancing to secure a spot in tomorrow's final.

7月28日、7年ぶり10度目となる東京ドームで「マイナビオールスターゲーム2026」第1戦が開催された。試合前に行われた恒例のホームランダービーでは、第1試合で延長戦の末に佐藤輝明（阪神）が清宮幸太郎（日本ハム）を、第2試合では森下翔太（阪神）が万波中正（日本ハム）を下し、ともに準決勝へ進出した。決勝進出を懸けた準決勝は、

阪神のクリーンアップを担うスラッガー同士の対決。今季のセ・リーグ本塁打王争いを引っ張る両雄が激突すると、先攻の佐藤が7本塁打を放った。第2試合で9本塁打を記録していた森下は4本塁打に終わり、佐藤が決勝進出を決めた。

先制したのは全セだった。1回裏、二番・佐藤が全パ先発・伊藤大海（日本ハム）の直球を右翼ポール際の2階席へ運ぶ一発。幸先よくリードを奪うと、2回裏には細川成也（中日）が左中間席へソロ本塁打を放ち、リードを2点に広げた。

全パは3回表、二死二塁から近藤健介（ソフトバンク）が全セ二番手・井上温

大（巨人）の直球を捉え、中堅フェンス直撃の適時二塁打。続くレイエス（日本ハム）の右前適時打で2点を奪い、試合を振り出しに戻した。なおも二死一塁で栗原陵矢（ソフトバンク）が右翼へはじき返すと、一走・レイエスが懸命の激走。俊足とは言えない助っ人だったが、三塁コーチャーの髙橋光成（西武）は迷わず腕を回した。三塁を蹴って本塁を狙ったレイエスは憤死。それでも全パ・小久保裕紀監督が「シーズン中に見ることのない光景を楽しんだ」と笑顔で振り返ったように、その全力プレーにベンチは大いに沸いた。

5回表、全パは先頭の小川龍成（ロッテ）が右前打で出塁すると、続く万波の打席で二盗を成功させ、無死二塁の好

機をつくる。万波が放った鋭い打球は一、二塁間へ。二塁手・中野拓夢（阪神）がスライディングキャッチを試みたものの捕球できず、打球は右前へ抜けた。二走・小川が一気に生還し、全パが勝ち越しに成功した。7回には二死二塁から万波が右翼へ適時三塁打を放つ。8回表には代打・西川史礁（ロッテ）が無死一塁から2ランを左中間席へたたき込むと、村林一輝（楽天）もソロで続き、2者連続アーチでリードを5点に広げた。

6回表には球宴ならではのシーンも飛び出した。全セの五番手・田中瑛斗（巨人）は、元チームメートのレイエスを打席に迎えると、初球を投じる前に中堅方向を振り返り、テレビカメラへ帽子のつばを披露。そこには直筆で「シュートいきま

す♡」の文字が記されていた。試合前の練習中にレイエスへ「全球シュートを投げる」と予告していた田中瑛は、その宣言どおりシュートだけで勝負。2球目を左前へ運ばれたものの、続く栗原を空振り三振、ネビンを三ゴロ併殺打に仕留め、ガッツポーズを見せた。

3回以降は沈黙していた全セ打線だが、8回裏にようやく反撃した。先頭の浦田俊輔（巨人）が内野安打で出塁すると、すかさず二盗を成功させる。大城卓三（巨人）の適時二塁打で1点を返し、一死後には大山悠輔（阪神）が横山陸人（ロッテ）の直球を左翼席中段へ運ぶ2ラン。終盤に粘りを見せ、2点差まで詰め寄った。9回裏にも藤平尚真（楽天）を攻め、無死二塁の好機を演出。しかし、

あと一本が出ず、反撃は及ばなかった。両軍合わせて5本塁打を含む28安打が飛び出した乱打戦は、7対5で全パが制した。

　MVPには4安打2打点の万波が選ばれた。「勝ち越し打を放ってからは、『全員凡退しろ』と思っていました（笑）。東京で生まれ育ったので、東京ドームでMVPに選んでいただけて最高でした」と笑顔を見せた。敢闘選手賞には2回3奪三振の平良海馬（西武）、西川、佐藤が選出。佐藤は、試合を通じて子どもたちに夢を与えた選手に贈られるマイナビドリーム賞も受賞した。第2戦は7月29日に富山市民球場で開催される。30年ぶりに富山で開催される夢の球宴にも注目が集まる。

全セ・佐藤輝明、球宴2年連続アーチ 「良いところを見せられた」 ホームランダービーでは決勝進出／オールスター（1/2ページ）

マイナビオールスターゲーム第1戦（28日、全セ5－7全パ、全パ1勝、東京D）「マイナビオールスターゲーム2026」は28日、東京ドームで第1戦が行われ、全パが全セに7―5で勝利した。全セの「2番・右翼」で出場した阪神・佐藤輝明内野手（27）が、一回に右翼へ特大の先制ソロを放った。球宴での本塁打は昨年第2戦に続き通算3本目。試合前に開

催されたホームランダービーでは計17発で29日の決勝に進出した。第2戦は29日に能登半島地震の復興支援として富山市民球場で行われる。

祭典の号砲を鳴らすかのように、白球を運び去った。たった一振りで主役の座をかっさらう。それが佐藤輝明という男だ。今年も球宴でアーチを描き、球場全体のボルテージをぶち上げた。

「もうホームランを打てたので満足です。結構飛距離も出ましたし、良いところを見せられたんじゃないかなと思います」

「2番・右翼」で出場し、その第1打席。一回1死で伊藤（日本ハム）と対峙（たいじ）した。初球に投じられた球場表示50キ

ロの超スローボールにも「来るんじゃないかなと思ってたんで、予想通りでした」と動じることなく、カウント3―1から外角145キロをフルスイング。打った瞬間確信の一発は右翼ポール際上段まで消えていった。打球速度176キロ、飛距離126メートルの衝撃弾で、今年の球宴1号と全セの先制点をたたき出した。